

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1292600036
法人名	社会福祉法人悠々会
事業所名	グループホーム悠々やちよ
所在地	〒276-0013 千葉県八千代市保品字栗谷2070-5 (電話) 047-489-1515

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年3月11日
評価確定日	4月21日

【情報提供票より】(20年2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年9月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤4人, 非常勤7人, 常勤換算5.4人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,100円	その他	食材料費56,700, 水道光熱費12,600, 理美容代, おむつ代, 教養娯楽費, 日用品費など	
敷金	無	有りの場合		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	償却の有無		
食材料費	朝食	400 円	昼食	570 円
	夕食	690 円	おやつ	230 円
	または1日当たり 1,890 円			

### (4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	八千代病院
---------	-------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中、本体である特別養護老人ホーム八千代城に隣接しており、横の繋がりがあがる。敷地内は入居者の散歩コースにもなっている。ホームは平成19年9月開設。平屋建て1ユニットの屋内は広々としており、廊下が広くとられ、雨の日は廊下を往復歩行して運動不足を防いでいる。玄関脇に数字カードを置き、何往復したか自分で計算できるように工夫されている。共有スペースや居室も広く清潔で、入居者は落ち着いた環境で日常生活を送っている。リビングに自然と入居者が集い、会話を楽しんでいる。開所間もないが、職員は入居者個々のペースで生活を送れるよう懸命に取り組んでいる姿勢が見受けられ、今後が期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は初回であるため前回の改善課題はない。月1回のカンファレンスを開催し、その都度ケアの見直しを行い、情報を共有している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を实践する意義を理解し、これからのサービス向上に前向きに取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2回開催されており、入居者、家族代表、地域社会福祉協議会、地域包括支援センターが参加している。入居者からの要望を取り入れ、今回初めての毎狩り、日帰り旅行を行う予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会にきた家族と何でも話せる雰囲気を作り、常に話せる機会を設けている。面会に来られない家族には電話報告を行っている。入居者の所持金を預かる際には直接ホームに足を運んでもらって家族と話す機会を設け、出た意見は運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区社協開催の敬老会に参加。散歩時に地域の方に積極的に声かけなどを行い、交流の場を設ける努力をしているが、行事への参加が少なく、今後の取り組みが期待される。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書にパーソンセンタードケアの理念を掲載しており、またわかりやすい「明るい会話。生きがいの持てる毎日。素敵な笑顔。」をモットーにケアに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設間もないため、全職員の理念共有化には至っていない。		全職員が理念を共有し、日々の話し合いや確認がなされ、浸透していくことが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に地域の方に挨拶したり、会話を交わしている。ボランティアを受け入れている。社協主催の敬老会に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は意義を理解しており、真剣に取り組んでいる。自己評価作成にすべての職員が関わっていないが、意義については皆、理解している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまでに2回開催している。入居者全員、家族代表、地区社会福祉協議会・地域係、地域包括支援センター職員らが参加。入居者からも意見、要望が出ており、改善すべく検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	八千代市へも積極的に運営推進会議への参加を呼びかけているが、今のところ参加はない。本年度より、介護相談員が訪問予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭出納、健康状態、日常の様子を面会の折に家族に報告している。遠方で来られない方には電話で報告するが、定期的な報告には至っていない。		全家族へ向けての定期的な報告はなく、個々により報告状況は異なる。定期的にホーム便りを発送するなど、暮らしぶりを伝える取り組みが促される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が参加し、意見を出せる機会を設けている。また面会時にも声をかけ、意見・要望があれば受入れるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から現在のところ、退職者は1名に留まっている。後任を入れる際も、入居者との顔なじみの関係作りに気を遣っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体の特養と月1回の割で会議を開催し、また研修にも参加しているが、段階に応じた研修への参加は不十分である。		外部研修への参加、研修計画への取り組みを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市サービス事業者協議会へ加入し、同協議会の研修会への参加や運営企画に協力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学のお誘いをし、ホームの雰囲気を味わってもらっている。同法人のデイサービス利用者がホームに入居するケースが多く、比較的スムーズにホームにとけこんでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>様々な生活場面において人生の先輩である入居者より知識、得意分野を教えてもらっている。職員の年齢が若いこともありお互いに支えあう関係が築けている。</p>		
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>今の時点では、大方の入居者が自分自身の意向・希望を表すことが出来ている。その為どの様に暮らすのか把握しやすい。各々の希望は、介護計画に反映させている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメントシートを元に介護計画を作成している。センター方式を利用することにより、きめ細かく具体的な計画に繋がっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月に行なっているホーム会議の中で、入居者一人ひとりについて話し合いを行い、介護計画に反映させている。家族の要望は各職員が記録として残し、共有したうえで、介護計画に反映させている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院介助、入居者個々の買物支援などを行なっている。これからは、旅行などの取り組みもしていきたいと考えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者がホームに入る前からのかかりつけ医の診療を受け、安定している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として終末期介護も視野に入れ、対応方針を作り上げて行きたいと準備中である。第一段階として訪問看護ステーションと契約を行なった。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に入居者からの評価を念頭におき、失礼のない様に注意している。個人情報についても秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自然の流れの中で、その日行う事を決めている。自室で過ごす人・リビングでのレクリエーションなど、入居者各々の要望を取り入れ一日を過ごすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間のうち6食を、入居者全員で話し合っ決めて献立にしている。準備あと片付けは、今の所参加者が少ない。おやつは、職員・入居者全員で作っている。		食事の準備や後片付けにも入居者に加わってもらい、より一層、家庭の食事に近づくよう、引き続き支援をお願いしたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	順番や曜日等ホーム側で取り決めをせず、入居者個々の希望に合わせている。入浴をしない日は、足浴を勧めている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事の飾りつけや食事の献立等は、入居者と相談し共に行なっている。3月の全員で決めた外出(イチゴ狩り)を皆で心待ちしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午後は毎日散歩できる体制を作っている。近隣の方と会ったときは、グループホームの紹介を通して交流のきっかけにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵を掛けず自由に入出入りできる支援をしている。内側から開いたときは、静かなメロディがそれを知らせ、玄関に隣接している事務所との境は、ガラス張りになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業主体である社会福祉法人悠々会が同一敷地にあり、セキュリティシステムが連動している。定期的に行われている主任クラス会議で災害対策協議について話し合いがもたれている。グループホーム単体のマニュアルも作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム独自の健康管理表により入居者個別の食事量・水分量の記録がなされ、分り易い仕組みとなっている。栄養バランスについては栄養士が献立をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は南西方向に窓があり、外に季節の表情がみえて明るく暖かい。居間の一部が畳敷きとなっておりくつろぐことができる。廊下の広さと長さを生かし、運動に利用している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたパソコンやマッサージチェアなど、実用的なものの持込みの他、写真や使い慣れた馴染みの品なども置かれている。		